

研究部レポート

東京の鳥の繁殖分布の変遷・2 減った鳥

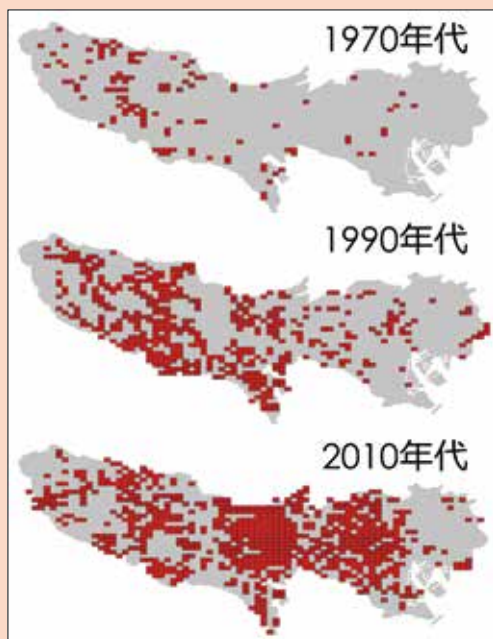
〔12～13ページの「東京都鳥類繁殖分布調査から見てきたこと」も併せてご覧ください〕

メジロ・かつては“漂鳥的な鳥”だった



今では都内全域で最も普通の「留鳥」ですが、1970年代の地図では、その状況を理解できないと思います。

この鳥はかつて23区内や多摩地区で繁殖期にあまり生息せず、秋から冬にかけ増える鳥でした。そのことは皇居での黒田長久博士の1965～1975年の調査(『山階鳥研報』第15巻に所収)、多摩地区の東久留米市での長年の観察(『東久留米の野鳥』1977年刊)等で知る事ができます。夏季にも23区内に少数生息していたので、完全な冬鳥ではなく、また、高尾山や奥多摩では昔から一年中普通に生息していたので、東京都全体でいえば、“漂鳥的”動きをしていた鳥といえます。



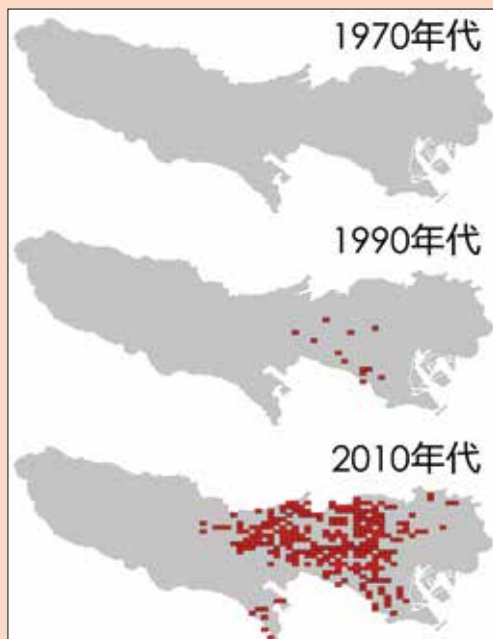
ホンセイインコ・ワカケホンセイインコは亜種名



普通「ワカケホンセイインコ」と呼んでいるこの鳥は、熱帯・亜熱帯に分布するオウム目インコ科のホン

セイインコ(本青鸚哥)のインドなどに分布する一亜種。首に黒い環があるため「輪掛」と名づけられています。1960年代末に、世田谷区内のペット店から大量に逃げ増えていきました。目黒区の大学構内で1000羽程のねぐらがあつた時もありましたが、現在は定住のねぐらの場所がはっきりしません。今回の繁殖分布地図を見ると、都内に広く生息するようになった事がよくわかります。原産地では農作物の害鳥とされているこの鳥がもっと増えたらちょっと心配です。

〔川内 博〕



【資料・写真提供】バードリサーチ(地図)・内田 博(アカモズ)・鈴木弘行(シロチドリ)の皆さんに感謝します。